

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径 No.178

2023 August

8月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

じょうしゅ 常套手段

いつもきまって使う方法や手段のことです。「常套」には古くさいとかありふれているという意味があります。慣用手段ともいいます。

1人1台端末学習 一見えてきた課題一

- 1人1台端末を活用するようになってから、子ども一人一人に主体的に取り組む姿勢が見られるようになってきました。これは大きな成果です。
- 一方、子どもの学びが孤立化、孤独化しているとの指摘があります。みんなで協働的に学ぶ機会を効果的に位置づける必要があります。

1人1台端末学習のよさ

文部科学省の提唱するGIGAスクール構想によって、1人1台端末の整備が進んできました。本構想は、学校現場で多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを持続的に実現させることを目指しているものです。

小学校でも、子ども一人一人に配布されたパソコンを活用した授業が展開されるようになり、学びの方法や質が大きく変わってきました。

これまでは教材や資料が主に紙ベースでした。それが一斉に子どもの画面に送信し、子どもたちは選択したり、部分を大きくして読み取ったりするなど、一人一人の課題意識に沿ったデジタル教材が活用されるようになってきました。また、子どもたちの考えを一斉に同一の画面に送信し、みんなで共有したり吟味したりする活動がこれまで以上にやりやすくなりました。

家庭に持ち帰らせている場合には、家庭でさらに深まりのある学びを展開する子どもも増え、家庭での学習習慣の向上にもつながっています。

さらに、個人情報やプライバシーや著作権などに十分配慮すること、一人一人の

人権を尊重することなど、活用に当たってのルールやマナーについても指導が徹底してきました。

これらは、GIGAスクール構想による1人1台端末整備の成果だと受けとめることができます。

「協働的な学び」と一体に

1人1台端末を活用することによって従来の授業のスタイルが変わってきた反面、次のような課題を指摘する声が聞かれます。

あるベテランの先生は、国語科に関連して「子どもが画面に打ち出した漢字だけを見ても、その文字を正しい書き順で書くことができたのかどうかは紙のノートなどに改めて書かせないとわからない」といいます。また「漢字を正確に書けなくても、キーを押しながら変換しているうちに探し出すこともできる」とも付け加えました。

ある算数科を専門に研究している先生は、「調査結果をグラフに表すという課題を与えたところ、パソコンの画面上にどの子どもも短時間にグラフ化できました。ところが、従来はグラフに表す活動に子どもによる違いが見られ、それらを教材として活用することができました。ICTを活用すると、どの子どもも同じグラフを完成させる

ため、個性が見えにくくなってしまい、算数科の面白みが半減してしまいました」と指摘しています。

日ごろから学級経営を重視している先生は「1人1台の端末を活用することによって、学びが個別化し一人で学ぶ時間が増えてきました。これはとてもよいことですが、学級全体を見わたすと操作の仕方がわからなかったり、理解が深まらなかったりして孤立している子どもがいます。孤独になっていることもあります。これまでは友だちに気軽に聞くことができましたが、熱心に取り組んでいる友だちを見ると、遠慮してしまうようです」と、子ども同士の関わり合いが希薄になってきたといいます。

さらに、長時間注視していると視力が低下するとの報告もあります。

ここに紹介した指摘は、アナログな学び方や子ども同士が学び合うことの大切さを強調しているものです。個別的な学びを重視するとき、その対局にあるみんなで学び合い高め合う「協働的な学び」を一体的に展開することが求められます。これはこれまでの日本の学校教育で伝統的に大切にしてきたことです。

デジタルかアナログかの二項対立ではなく、それぞれのよさを取り入れた取り組みを重視したいものです。

8月

23日

今月の記念日

白虎隊の日

1868年(慶応4年)のこの日、戊辰戦争で会津藩の15~17歳の少年で構成された白虎隊の生き残りが城下の飯盛山で自決しました。

今日の勉強はよくわかったよ

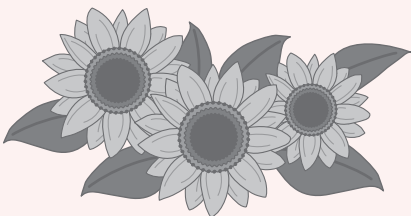
授業の終末でのことです。健太さんは「今日の勉強はとてもよくわかったよ」と満足そうに言ってきました。先生は「よかったわね」と言っただけでした。どのようにリアクションすればよかったのでしょうか。

学習を終えて「とてもよくわかったよ」と、学習の満足感を伝えてくることは、本人の努力はもとより、授業者の指導がよかったのでしょう。ただ、「よかったわね」と教師が言うだけではもったいない場面です。

「どこがよくわかったの?」「どんなことがわかったの?」と、理解した内容を確認したいところです。このことによって、教師が健太さんの学習状況を確認し評価することができるだけでなく、健太さん自身も学習の成果を再確認することができます。

また、「授業のはじめにどう理解していたのか」、「学習をとおしてはじめての考えがどのように変わったのか」など、思考や理解の変容を確認させます。わからなかったことがわかるようになったこと、できなかったことができるようになったことを意識させることは、学習したことの成就感や満足感を味わわせることです。自らの成長を自覚させることでもあります。

さらに、「わからなかったことはなかったのか」「もっと詳しく勉強したいことは何か」などと問いかけ、新たな課題を意識させることも大切です。



第4期教育振興基本計画

教育振興基本計画とは、わが国の教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために、教育振興の方針や講ずべき施策など必要な事項についての基本的な計画を定めたものです。都道府県や市区町村でも、地方公共団体の実情を踏まえて教育振興基本計画を定めるようになっています。いずれも教育基本法（第17条）の規定にもとづいて策定されるものです。

教育振興基本計画は5年ごとに見なおされています。第3期の教育振興基本計画がこの3月に終了し、この4月から第4期が実施されています。

基本計画では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトにしています。これを受け、今後の教育政策の基本方針として、①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成、②誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進、③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進、④教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進、⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話をあげています。

各学校で、国や当該の自治体の教育振興基本計画について研修する機会を設けてはどうでしょうか。

北俊夫の「実践と研究」の足あと46

足あとは42冊の単行本

出版する図書の形態には、一冊をひとりで丸ごと執筆する単著と、全体の構成を考え、自分も含めて数人の原稿を編集する編著、数人で分担して執筆し一冊にまとめる共著があります。

初発の単著は、昭和61年(1986年)の『イラストを取り入れた社会科授業』(明治図書)でした。単著はこれまでに42冊になります。それらは次のように分類できます。

- ・社会科授業……………22冊
- ・学校教育全般……………6冊
- ・授業全般……………4冊
- ・学習評価……………3冊
- ・総合的な学習……………2冊
- ・食育、自然災害、エネルギー…3冊
- ・その他……………2冊

最も多いのは「実践と研究」の中心

にしてきた社会科に関するもので、半数以上を占めています。これらのうち最も新しい図書は『社会科が好きになる授業づくり入門』(文溪堂)です。

発行順に並べると、私の「実践と研究」の足あとがわかります。また、そのときどきの私自身の問題意識が明確になります。学習指導要領の改訂や学校教育の課題に伴って、書名にもその時々々の要請が反映されています。

出版すると、お世話になった先生方にお贈りします。すると「よく書く時間がありますね。いつ書くのですか」「書く内容があるのですね」などといわれました。内容や構成、書き方に触れた感想などもいただきました。

さらに、私が40数年間ライフワークとして取り組んできた「トイレの研究」をもとにまとめた『トイレ四方山ばなし』(文芸社)があります。

INFORMATION

社会科が 好きになる 授業づくり入門

北俊夫 著

すぐに使える!

授業づくりの

基本がわかる

3テーマ

Pick Up!

I「よい授業」の要件とは何か

II社会科の授業づくりのポイント

III社会科好きの子どもを育てる極意

A5判144ページ 定価1,320円(税込)



編集後記

北先生が、ご専門の「社会科」だけにとどまらず、それ以外の多岐に渡る内容の著書を手がけていらっしゃることに、毎回感銘を受けます。これは先生の興味・関心の賜物であると思います。これからも意欲的にご執筆いただけることを望んでおります。(Y記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2023年8月1日